

6月の安心かわら版



6月の主な行事

7日：母親大会記念	17日：父の日
11日：雨漏り点検の日	19日：ベースボール記念日
15日：暑中見舞いの日	20日：健康住宅の日

老舗茶屋の茶師に聞く、新茶を堪能する方法

私たち日本人が日々楽しんでいる緑茶は、この時期、新たな季節を迎えています。「茶師十段のいる日本茶専門店 しもきた茶苑大山」の大山拓朗さんは、旬真っ盛りの新茶のおいしさを存分に味わうためには、まずは茶器を準備することをおすすめします。

「お茶は、目詰まりしやすい急須で目詰まりしないように操作をして淹れたものおいしいというのが、私の持論です。急須は、内側にキンカンの実大のドーム型茶こし(出ペソ)が陶器と一体成形でついているタイプがおすすめです」(大山さん)

急須の茶渋は、しっかり落としたほうがおいしいお茶をいただけます。急須に茶渋がついている人は、次の洗浄法ですっきりと落としましょう。

【急須の洗浄法】

- ① 台所用塩素系漂白剤を、説明書に従って水と混ぜ、食器用漂白液を作る。
- ② 軽く洗った急須の中に①の漂白液を口いっぱいまで注ぎ、そのまま一晩置く。注ぎ口から漂白液があふれてもいいように、急須を洗い桶やボウルなどに入れて行うといい。
- ③ 翌朝に②をよくすすぎ、その日1日は乾かしておく。
- ④ ③のあと、もし漂白剤のにおいが気になる場合は、急須の口いっぱいまで熱湯を注ぎ、煎茶の葉をひとつまみ入れてふたをし、一晩おく。翌朝よくすすいで乾かす。

急須の洗浄は年に1回は行いたいので、毎年、新茶をいただく前の恒例行事とするのがおすすめです。塩素系漂白剤のにおいが気になる場合は、酸素系漂白剤を使用しましょう。

茶器を準備して新茶を手に入れたら、さっそくお茶を淹れましょう。次の方法で「三煎で味わいつくす」のが、おいしくいただくコツです。

【おいしいお茶の淹れ方】

- ① 人数分の湯呑みに沸騰した湯を注ぐ。沸騰後ポットで保温された湯ならなおいい。
- ② いつもと同じばかり方で人数分の茶葉をはかり急須に入れる。急須を振って茶葉を平らにならす。
- ③ ①の湯を、②の急須に茶葉がひたひたになるまで注ぐ。ふたを開けたまま茶葉の変化を観察し、湯が茶葉に含まれて見えなくなるのを確認する。
- ④ ③から間を置かずに残りの湯を全量入れてふたをし、速やかに湯呑みに注ぎ分ける。このとき、全量が入った湯位が急須の何分目程度か覚えておく。

以上で一煎目を淹れて味わったら、二煎目は④の湯位まで急須に沸騰したお湯(または沸騰後ポットで保温したお湯)を注いで淹れます。三煎目も同様に④の湯位まで沸騰したお湯(または再沸騰させたポットのお湯)を注いで淹れます。

一煎目は「旨みの茶」、二煎目は「渋みの茶」、三煎目は「香りの茶」を楽しめます。煎を重ねて、移りゆく味わいを堪能してみてください。

以上

※掲載内容の無断転載を禁じます

監修

大山拓朗さん

全国に13名、東京で唯一の茶師十段のいる日本茶専門店「しもきた茶苑大山」を世田谷区下北沢で70年近く営業。平成15年に史上2番目、東京初の茶審査技術10段に認定される。日本茶鑑定士。世田谷区初の「お茶のマスター」。定評ある鑑定眼により、東京都優良茶品評会などの審査員を歴任。大学・高校・中学・小学校の学域およびカルチャースクールで講師を務める。

安全運転アドバイス



原付バイクと事故を防止するポイント



原付バイクは手軽な移動手段として、若者から高齢者まで幅広い年齢層で利用されていますが、身体を露出し自転車よりも速い速度で走行する原付バイクとの事故は、重大な人身事故につながります。そこで今回は、原付バイクとの事故を防止するためのポイントをまとめてみました。

■原付バイクに対する留意点

<原付バイクの視界は乗用車より狭い>

路面の変化を受けやすい原付バイクは、視線が近くの路面に向きやすいため、遠くの前方や左右の方向にはあまり視線が向かない傾向があります。そのため、前車のウインカーやブレーキランプに気づかないこともありますから、左折時や進路変更時などに、「後方の原付バイクは自車のウインカーに気づいているはずだ」と思いこむのは危険です。

<原付バイクの速度などを過小評価しやすいく>

原付バイクは四輪車に比べて車体が小さいため、乗用車のドライバーはその速度を実際よりも遅く判断したり、原付バイクとの距離を実際よりも速くに判断することがあります。特に速度については、原付バイクの最高速度が時速30キロと定められているからといって、過小評価するのは危険です。

<原付バイクは急に進路を変更することがある>

道路の左端を走行することの多い原付バイクは、駐車車両などの障害物の影響を受けやすく、進路を塞がれると急に進路変更してることがあります。また、水たまりや落葉の吹き溜まりを避けるために進路変更してることがありますから、原付バイクの動きから目を離すのは危険です。

<原付バイクは急停止すると転倒するおそれがある>

原付バイクは、急停止するとバランスを崩して転倒するおそれがあります。そのため、たとえ衝突しなくても原付バイクに急停止をさせるような運転をすると、転倒を引き起こして重大な人身事故につながる危険があります。

■原付バイクとの事故防止のポイント

<左折時などには原付バイクの有無を確認する>

交差点を左折したり、左側に進路変更するときは、左後方から原付バイクが接近していないか必ず確認しましょう。その際には、原付バイクはドアミラーの死角に入ってしまうことがありますから、ドアミラーだけに頼るのではなく、顔を向けて自分の目で確認しましょう。

<右折時に原付バイクが接近していたら通過を待つ>

交差点を右折するときは、対向車線に直進してくる原付バイクがいらないかを必ず確認し、接近しているときは停止して、原付バイクの通過を待ちましょう。強引に右折していくと、原付バイクに急レーキをかけさせ転倒させるおそれがありますから注意しましょう。対向車線の状況が確認しにくいときは、対向車の前方に出る前に一時停止して、対向車の側方から原付バイクが接近していないか確認しましょう。

<原付バイクの進路変更を予測する>

前方左端を原付バイクが走行しているときは、その先の状況にも目を配り、駐車車両や水たまりなどの障害物があるときは、原付バイクの進路変更を予測して追越しや追抜きはせず、速度を落とし車間距離をとって、原付バイクが進路変更をするのを待つようにしましょう。

<ドアを開けるときの原付バイクを確認する>

駐停車して車から降りようとするとき、不用意にドアを開けると、進路を塞がれて進路変更してきた原付バイクがドアに衝突することがあります。ドアを開けるときの、後方から原付バイクが接近していないかどうかを確認するとともに、同乗者にもそれを徹底しておきましょう。

以上